

内分泌・代謝内科

内分泌・代謝内科：1年次必修研修および2回目の選択研修。

指導医：内分泌・代謝内科部長又は医長。内分泌代謝糖尿病内科領域、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、内科学会の専門医や指導医の資格のある医師。

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の内分泌代謝内科医師および臨床経験7年以下の内分泌代謝内科医師。

指導者：糖尿病療養指導士（薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士）、糖尿病病棟の看護師及び担当薬剤師・栄養士・検査技師・理学療法士、外来専従看護師

●一般目標（GIO）

内分泌代謝内科は、糖尿病や甲状腺疾患のように非常に患者さんが多い疾患を扱う一方、病態を理論的に追及しないといけない専門性の高い内分泌疾患も扱う。急性期の治療から慢性期の管理まで必要であり、全身を扱う疾患に求められる基本的知識、臨床応用能力、態度を習得し各専門的医療に進むための基礎を築く。

チーム医療の一員として他の職種を理解することやチームリーダー・マネージャーとしての能力（コミュニケーション、情報の共有化、チームマネジメントなど）の獲得を目指す。糖尿病教室など患者や一般住民に対する啓発活動を行える能力の基礎を築く。

●行動目標（SB0s）

- ・ 患者および家族との信頼関係を確立することができる。上級医と連携し、患者および家族に十分な指導が行える。
- ・ メディカルスタッフ（薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士）を含めたチーム医療を理解し、その中で上級医とともに医師としての役割を果たすことができる。
- ・ 内分泌代謝内科疾患の病理・病態生理を理解できる。
- ・ 問診・身体診察を含む非観血的診断スキルを身につけ、総合的診断能力を養う。
- ・ 内分泌代謝内科疾患の救急疾患の初期診断および治療に必要な知識・技術を習得し、救急医療で求められる迅速な判断・対応を身につける。
- ・ EBMに基づく内分泌代謝内科医療を行うための情報収集・技術講習を通じ、積極的に自己の啓発に努めることができる。
- ・ 地域中核病院にて診療に従事する重要性を理解・自覚し、地域チーム医療としての病院連携を図ることができる。糖尿病教室など患者や一般住民に啓発活動を行う。

●方略

<病棟業務>

- ・ 病棟を中心に、常時数名程度の患者を指導医・上級医とともに担当する。担当患者の間

診および身体所見をとり、指導医・上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。糖尿病教育入院の場合、入院時にクリニカルパスや指示書、入院療養計画書などを作成し、入力する。

- ・ チーム医療の一員としてメディカルスタッフとコミュニケーション行い、情報を共有化し、上級医とともにチームリーダーとしてチーム医療をマネジメントすることができる。
- ・ 担当患者の糖尿病 3 大合併症や動脈硬化性疾患の検査、ホルモン検査、負荷試験などの各種検査にできるだけ付き添い、検査を状況に応じて指導医指導のもとで実践し、結果について説明し必要あれば指導を行う。指導医とともに必要な生活指導を入院患者に行い、診療内容・説明内容をカルテに記載する。
- ・ 担当患者に関わる書類(他院への診療情報提供書、入院証明書など)の作成を経験する。
- ・ 入院患者やその家族に対する退院前の病状説明や指導を上級医とともに行う。

<糖尿病教室>

- ・ 内分泌代謝内科ローテート研修中に必ず 1 回は、集団指導（糖尿病教室）を単独で行う。

<救急業務>

- ・ 担当患者の急変や救急患者に対しては、指導医、上級医とともに直ちに対応する。ただし時間外については、業務過多にならないように指導医・上級医とあらかじめ相談しておく。

<外来業務、コンサルテーション>

- ・ 内分泌代謝内科専門外来にて、別記してある領域的研修内容の疾患を指導医、上級医とともに経験する。臨床研修 2 年目の研修医においては、問診、診察、検査オーダー、評価、処方といった「一般外来」診療を経験する。
- ・ 他の診療科からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<基本的検査手技および治療手技>

- ・ 甲状腺穿刺など後述する検査手技、治療手技を、当初は見学からはじめ、慣れた頃には、指導医、上級医の指導のもと施行する。

<カンファレンス、勉強会>

- ・ 毎週 1 回のメデカルスタッフとのチームカンファレンスに症例を提示し、チーム医療に積極的に参加する。
- ・ 月 2 回の内科医によるカンファレンス、週 1 回の内分泌代謝内科医によるカンファレンスに症例を提示し参加する。
- ・ 月 1 回の小児内分泌医とのカンファレンス、勉強会に参加する。
- ・ 毎月の抄読会に参加する。なお、臨床研修医は内分泌代謝内科ローテート研修中にできるだけ抄読会を担当する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診 (内分専門外来 見学・参加)	病棟回診
午後（こ こに書い てある以 外は、病 棟回診）	16：00～ メディカルスタッフ とチームカンファレ ンス	15：30～甲 状腺超音波 検査と吸引 細胞診 ★月2回 内科合同カン ファレンスと抄 読会	16：00～ 内分泌代 謝医カル テ回診 ★月1回 小児科と 内分泌合 同カンファレンス	15：00～糖尿病 教室	

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。

●参考資料

- ・ <基本的検査手技および治療手技>

研修内容

1. 基本的な診察法を習得する。
 - 1) 正確な病歴聴取
 - 2) 身体所見の取り方（特に甲状腺触診、アキレス腱触診、末梢神経所見などの取り方）
2. 基本的な検査方針を指示し、その結果を判断する。
 - 1) 血液生化学（血糖、HbA1c、血清脂質など）
 - 2) ブドウ糖負荷試験、一日血糖、尿糖排泄量
 - 3) 脳下垂体・甲状腺など各種ホルモン基礎値
 - 4) X線検査（甲状腺、アキレス腱、トルコ鞍など）
 - 5) 糖尿病性合併症（眼底所見、腎機能、神経伝導速度など）
3. 専門的な検査を指示し、その検査結果を解釈する。
 - 1) 甲状腺超音波検査

- 2) CT スキャン、MRI 検査（甲状腺、副腎、下垂体など）
- 3) 内分泌核医学検査（甲状腺スキャン、副腎スキャンなど）
- 4. 指導医と相談の上、専門的検査について計画を立て、その結果を判断する。
 - 1) 各種ホルモン負荷試験（脳下垂体、副腎、甲状腺など）
 - 2) 腎盂造影（腎生検用）
- 5. 主な内分泌・代謝疾患の病態生理と診断法について習得する。
 - 1) 糖代謝異常(糖尿病と合併症、低血糖)
 - 2) 高脂血症
 - 3) 甲状腺疾患
 - 4) 視床下部、下垂体疾患、副腎不全、高尿酸血症
- 6. 主な内分泌・代謝疾患の治療に参加する。
 - 1) 非薬物療法の指導
 - a. ライフスタイルの変更
 - b. 食事療法
 - 糖尿病食事療法の実際
 - 高脂血症食事療法の実際
 - c. 運動療法の指導
 - 2) 薬剤の処方
 - a. 経口糖尿病薬
 - b. インスリン
 - c. 高脂血症薬
 - d. ホルモン補充療法